

学位記番号： 修士第49号

氏名（本籍）： 林 裕 子（愛知県）

学位の種類： 修士（看護学）

学位授与年月日： 平成16年3月25日

学位論文題目： 幼児後期の子どもに小手術を受けることを“言う”母親
の体験

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	50	(ふりがな) 氏 名	はやし 林 裕子
修士論文題目	幼児後期の子どもに小手術を受けることを“言う”母親の体験		
<p>【研究目的】 予定された小手術を受ける幼児後期の子どもに対して、手術を受けることを説明するという母親の体験の意味を明らかにすることである。</p> <p>【研究方法】 小手術を受ける幼児後期の子どもをもつ母親 11 名に、In-depth Interview を実施、面接内容を逐語録に起こし、Colaizzi の現象学的アプローチを用いて分析した。</p> <p>【結果】 小手術を受けることを子どもに言う母親の体験の意味に関する 6 つのテーマ、及び、基本的構造を明らかにした。テーマは、①母親が、子どもに手術を受けることをどのように言うかは、病気や手術、全身麻酔に関して自分なりに折り合いをつけて必要性を受け止め、手術の時期を選択し、手術を受けることを決定した様々な思いが反映されている。②母親は、子どもが怖がらずに嫌がらずに手術を受けられるように、手術を受けることを子どもに言ってわかってもらいたいと思っている。③母親は、“この子”の母親として、感覚的に判断しながら、子どもに手術を受けることを言うことに関する選択をしている。④母親は、子どもが過去に、医療に関する体験をしたときの反応を考慮しながら、子どもに手術を受けることを言うことに関する選択をしている。⑤母親は、子どもに手術を受けることを言うとき、子どもの反応を予測しながら、「嫌」と言わないように子どもと駆け引きをしている。⑥母親は、子どもやきょうだいに手術を受けることを言うことによって、母親自身を手術に向けたり、子どもやきょうだいを手術に向けている、であった。</p> <p>【考察】 母親が子どもに小手術を受けることを言うということには、子どもの病気、手術や全身麻酔に関して気持ちに折り合いをつけ、手術の必要性を受け止め、時期を選択した、母親の様々な思いが反映されている。そして、手術を受けることを子どもに言い、その子なりにわかってもらいたいという姿勢で向かっている。子どもにどのように言うかは、母親として捉えている“この子”や、過去に子どもが医療を体験したときの反応をもとに言うことに関する選択をしている。いざ子どもに言うときは、子どもの反応を見ながら駆け引きをしている。母親は、子どもやきょうだいに言うことによって、手術を受ける“心構え”をつけ、同時に自分自身の“心構え”もつけ、手術に向かっている。</p> <p>【総括】 看護者は、母親の思いを汲み、母親の不安を軽減するような病気、手術や全身麻酔に関する情報提供を行う必要がある。母親が効果的な“プリパレーション”を実施できるには、子どもに真実を言うことで、怖がったり嫌がったりするのではなく、手術を乗り越えたいという意欲に繋がることを母親に知ってもらう必要がある。また、外来受診中から母親と子どもに“プリパレーション”を実施し、家庭で母親が子どもに“プリパレーション”ができるように、母親と子どもの“プリパレーション”をサポートできるようなシステムの構築が必要である。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
 2. ※印の欄には記入しないこと。